

平成27年度読書活動推進施策の概要について

平成28年6月3日
総合政策課

平成27年度における読書活動推進の取組としては、「県民読書の日」の周知や「スキッチャリサイクル文庫」の配付などを行ったほか、第1次秋田県読書活動推進基本計画(平成23～27年度)を引き継ぐ、第2次基本計画(平成28～32年度)を策定した。

1 平成27年度の主な取組

(1) 「県民読書の日」(11月1日)の周知
・「第2回ふるさと秋田文学賞」の作品募集及び受賞作品集の刊行。(応募93編) ・書店等において、ミニのぼり旗、ポップ等によるPRを実施。
(2) 子どもたちの身近な所に本のある環境づくり「スキッチャリサイクル文庫」
・県民から寄贈を受けた絵本を補修して、動物園やスイミングスクール等に配置。 (平成23～27年度の5年間で、約14,000冊を563か所に配置)
(3) 「高校生ビブリオバトル」初の全県大会を開催
・地区大会(能代・大館・秋田・美郷・由利本荘)においてチャンプ本、準チャンプ本を獲得した高校生バトラー10名が、全県大会においてお気に入りの本の魅力を発表。 ※ビブリオバトルとは、発表者(バトラー)の話を聞いた人たちの投票により、「一番読みたくなった本」(チャンプ本)を決める知的書評ゲームのこと。「ビブリオ(Biblio)」は、ラテン語の「biblion(本)」に由来する言葉。
(4) 「秋田県読書フェスタ」に全市町村が参加
・「県民読書の日」を含む11日間(平成27年10月24日～11月3日)に全市町村が読書イベントを集中的に開催。(平成26年度は22市町村が参加)
(5) 「市町村子ども読書活動推進計画」を全市町村が策定
・未策定であった湯沢市、鹿角市の策定により、全市町村において子ども読書活動推進計画が整備された。
(6) 第2次秋田県読書活動推進基本計画を策定
・「家庭」「学校」「職場」「地域」という県民の生活の場に応じて、県民提案などで共感を高めながら、市町村、企業、民間団体等と連携・協力し、「日本一の読書県」を目指して取り組むための第2次基本計画を策定した。

2 「達成すべき目標数値」に係る平成27年度実績

- ・達成指標 … 11(教育分野に関するもの11)
- ・未達成指標 … 21(教育分野に関するもの20、県民意識に関するもの1)

3 未達成指標に関する第2次基本計画の取組

第1次基本計画における未達成指標のうち、第2次基本計画においても「効果測定項目と数値目標」(64項目)に掲げたものについては、目標達成に向けて継続して取り組んでいく。

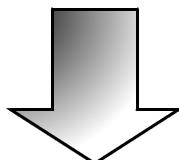
また、他の未達成指標については、県民の読書の傾向を表す基礎データとして引き続き把握することにより、関連施策の検証等に活かしていく。

【参考1】

未達成指標に関する第2次基本計画での取組例

(例) 県立図書館における年間貸出冊数

第1次基本計画の未達成指標	
《県立図書館の年間貸出冊数》	
達成目標値	450,000冊
②実績	432,610冊



● 年代別新規登録者数把握による個人貸出状況の要因把握と対策強化 (①~③)

【主な取組】

- ・子ども向け資料の充実による図書館利用の促進
- ・「teens'コーナー」の充実による中・高校生の図書館利用促進
- ・「シニアコーナー」「大活字本コーナー」等の充実による高齢者の図書館利用促進など

● 団体貸出の貸出先ごとの取組強化 (④~⑧)

【主な取組】

- ・学校図書館の環境整備や活用についての実践例の情報提供、調べ学習に活用できる図書セット貸出
- ・大学等の学生・教職員が県立図書館の資料を利用できる相互貸借の推進
- ・市町村立図書館への図書貸出による地域住民の図書館利用促進など

第2次基本計画「効果測定項目と数値目標」

①0~12歳の年間新規登録者数

②実績520人 → ③目標570人

②13~18歳の年間新規登録者数

②実績265人 → ③目標300人

③60歳以上の年間新規登録者数

②実績325人 → ③目標360人

④学校図書館への年間貸出冊数

②実績9,043冊 → ③目標10,000冊

⑤大学図書館との相互貸借の年間貸出冊数

②実績306冊 → ③目標350冊

⑥県子ども読書支援センターから県児童会館図書室への資料貸出冊数

②実績1,000冊 → ③目標1,200冊

⑦市町村立図書館等への年間貸出冊数

②実績21,350冊 → ③目標22,000冊

⑧県子ども読書支援センターの読書ボランティア団体等への年間貸出冊数

②実績2,287冊 → ③目標2,500冊

【参考2】

市町村における読書活動推進の取組例

1 図書館の取組

(1) 花輪図書館・十和田図書館(鹿角市)

- 花輪図書館の新館開館一周年(平成28年4月16日)に合わせ、花輪図書館はイヌの「はなわんこ」、十和田図書館はアヒルの「トワダック」をPR用キャラクターとして、無料通信アプリLINE(ライン)スタンプで販売し、収益金を両館の図書購入費に充てている。
- 花輪図書館の市文化の杜交流館「コモッセ」への移転を機に、閉館時間を午後5時半から7時に変更、県内で初めて自動貸出機を導入。来場者は平成27年4～9月期で、前年同期比8倍となっている。

(2) 大館市立中央図書館(大館市)

- ぬいぐるみが持ち主の子どもたちに読ませたい本を図書館で探すという設定の「ぬいぐるみのおとまり会」を開催し、子どもたちが本や図書館に親しみを持つもらうきっかけづくりをした。(平成28年5月)
- 図書館だけでなく、学校や自宅で読んだ本の記録も手書きで記入することができる「読書通帳」を利用者に無料配布している。(平成28年4月から、中央、花矢、比内、田代図書館で実施)

(3) 能代市立図書館(能代市)

- 春の「子どもの読書週間」、秋の「読書週間」に合わせて、貸出冊数無制限を実施。特に児童の読書意欲が喚起されている。
- 地元商店街の百円市イベントと連携して、市民、高校生、中学生が出場する「ビブリオバトル」を開催し、図書館のPRとイベント盛り上げを図っている。
- 午後7時から「バレンタインナイトコンサート」を開催。ジャズ、ポップス、歌謡曲をアマチュアバンドが演奏し、約230人が来館。(平成28年2月)
- 県立大木材高度加工研究所の研究成果を、館内に常設展示している。

(4) 八郎潟町立図書館(八郎潟町)[県市町村未来づくり協働プログラム事業]

- 平成27年5月にオープンした「えきまえ交流館・はちパル」の中核として、施設利用者増(当初予想の3倍以上)を牽引している。
- 蔵書数が1万8,000冊(旧図書館の2.3倍)となったほか、月替わりの企画展示や朗読等の読書企画を実施し、魅力の向上に努めている。
- 近隣6市町村(潟上市、井川町、上小阿仁村、五城目町、大潟村、三種町)の住民への貸出を行っており、町民1人当たりの年間貸出冊数は3.57冊(昨年度の9.6倍)となっている。

2 関係機関が連携した取組

(1) 八峰町

- ・ 公民館図書室2館に司書（各1名）を配置するとともに、小・中学校の学校図書館には教員免許を持った司書を兼任で配置し、連携して読書活動を進めている。
- ・ 公民館図書室は午後9時まで開館しており、自動貸出機を導入している。
- ・ 農協と郵便局、町営歯科診療所（計6か所）に「お届け文庫」を設置し、町民が様々な場所で本に親しめる環境づくりをしている。
- ・ 「子ども子育てマイブック事業」として、0歳から中学3年生までの全ての子どもに一人2千円以内で本を選んでもらい、町が購入して子どもにプレゼントしている。
- ・ 平成28年7月からは、軽トラを改造した「軽トラ移動図書館」事業を開始予定。

(2) 湯上市

- ・ 3中学校区に、それぞれ教員経験を有する学校サポーターと図書支援員を配置し、学校図書館の運営し、小学校から中学校までの9年間を通した児童の読書活動を推進している。
- ・ 学校サポーターは「図書のプロ」として、小・中学校の授業に必要な資料準備や授業への参画により教員をサポートしているほか、読書ボランティアの学校受入れの調整や読書イベントの開催に携わっている。
- ・ 企画政策課、学校教育課及び文化スポーツ課が連携し、市全体での読書活動推進体制を構築している。

(3) 横手市

- ・ 学校図書館を指導し、学校司書と市立図書館職員との調整役を担う専門監（教員経験者）を配置し、小・中学校の学校図書館担当教諭、学校司書、図書館職員の合同研修会を開催している。
- ・ 非常勤職員の司書は、長期的な視点で業務を行うほか、月1回職員会議を開催し、読み聞かせの実技演習などの切磋琢磨を通して、モチベーションを高めている。
- ・ 市長部局の各課に図書館担当者を置き、報告書やイベント関連資料などを郷土資料として収集している。
- ・ 増田中学校、平鹿中学校に「図書館サービススポット機能」を設け、生徒からインターネット等でリクエストされた本の貸出・返却受付を行っている。